

聴覚研究会ワードテンプレート (タイトル) ー研究会資料形式 (サブタイトル)ー

音響 花子[†] 聴覚 太郎[‡]

[†] 第一大学工学部 〒105-0123 東京都港区山田 1-2-3

[‡] 大阪株式会社開発部 〒565-0456 大阪府吹田市河田 4-5-6

E-mail: [†] hanako@onkyo.ac.jp, [‡] taro@chokaku.co.jp

あらまし Microsoft Word による聴覚研究会資料形式のテンプレートファイルです。

キーワード Windows, Word, 聴覚研究会, テンプレート

Word Template (Title)

ー The Format of Proceedings (Subtitle) ー

Hanako ONKYO[†] and Taro CHOKAKU[‡]

[†] Faculty of Engineering, First University 1-2-3 Yamada, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan

[‡] R&D Division, Osaka Corporation 4-5-6 Kawada, Suita-shi, Osaka, 565-0456 Japan

E-mail: [†] hanako@onkyo.ac.jp, [‡] taro@chokaku.co.jp

Abstract This is a word template file for Transactions on Technical Committee of Psychological and Physiological Acoustics.

Keywords Windows, Word, Technical Committee of Psychological and Physiological Acoustics, Template

1. 原稿用紙

1.1. タイトルその他(1 ページ目 上部)に関して

聴覚研究会資料の 1 ページ目上部には、タイトル、発表者氏名、所属、住所、メールアドレス、キーワードの和文と英文及びあらまし(和文 300 字程度、英文 100 語程度)を、それぞれ記述してください。

[招待講演], および, [特別講演]の方は、それぞれ[招待講演]または[特別講演]とタイトルの前にお入れください。

1.2. 本文に関して

本文は 1.1 の「タイトルその他」に続けて記述してください。記述に関しては、このテンプレートファイルを用いて作成するか、あるいは、任意の A4 判の用紙を利用することができます。その場合には、本文は左右 18cm, 天地 25.5cm 以内の長さにおさまるよう行間・字間を調整してください。

2. 原稿提出枚数

ページ数の上限は 6 枚です。図・表、写真を含め制限枚数以内で作成してください。原稿を作成する前に、手持ちの原稿量と制限枚数とを十分勘定し、必ず制限枚数におさまるようご注意ください(上限を超える場合、別途印刷代を負担していただくことになります)。

3. 原稿の書き方

フォント色：黒とします。紙原稿の場合、印字のカスレや濃淡のムラがないようご注意ください。

文字の大きさ：本文は 9 ポイント活字を標準とします。字間および行間は適宜調整してください。なお、標題は拡大文字とするのが望ましいです。

4. 図と表、写真

図と表：原稿の適切な位置に張り付けてください。

写真：出来るだけ一箇所にとめて張り付けてください（注：冊子資料は原則として白黒印刷のため、カラー写真も白黒とさせていただきます）。

- ・ 張り付けたものが原稿用紙の枠をはみ出ないこと。
- ・ 図面、写真、表の文字や数字は本文と同じ大きさであること。

5. 著者贈呈分

出来上がりました聴覚研究会資料は 1 件につき 1 部（電子版）を贈呈します。

6. PDF 入稿について

聴覚研究会では、2007 年度より研究会資料の電子媒体のみの入稿へと移行いたしました。PDF 原稿を作成の上、添付ファイルにてお送りくださいますようお願いいたします。PDF 入稿が困難な方は幹事までご相談ください。

PDF 原稿の作成には Adobe Distiller の使用を推奨します。PDFWriter や他フリーソフトをご利用の場合、冊子作成の際に問題が発生する恐れがありますのでご注意ください。特に"embed" (全フォントの埋め込み) を確実にするようにお願い致します。PDF 作成の詳細については、研究会ホームページを参照してください。

7. 原稿提出

調査票の提出欄から送付していきましょう。エラー等の際は、Email への添付にて PDF ファイルを下記メールアドレスへご送付ください。

E-mail: asj-hcom-apply@acoustics.jp

文 献

- [1] (雑誌の場合) 著者名, “標題,” 雑誌名, 巻, 号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月(英語)年.
- [2] (雑誌例 1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論(B), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan.1979.
- [3] (雑誌例 2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, “diffusion of impurities during epitaxy,” Proc. IEEE, vol.52, no.3, pp.284-290, March 1964.
- [4] (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [5] (著書, 編書例 1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎 (編), pp.21-41, (社) 電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [6] (著書, 編書例 2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- [7] (著書の一部を引用する場合) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号または pp.を付けて始め-終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [8] (著書の一部引用例 1) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎 (編), pp.21-41, (社) 電子情報通信学会, 1989.
- [9] (著書の一部引用例 2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin.
- [10] (国際会議の場合) 著者名, “表題,” 会議名, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 都市名, 国名, 月 (英語) 年.
- [11] (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no.MoF4.6, pp.3-13, Amsterdam, The Netherlands, Sept.1990.
- [12] (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 分冊または号, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月 (英語)

年.

- [13] (国内大会, 研究会論文集例 1) 音響花子, 聴覚太郎, “聴覚研究会ワードテンプレート (タイトル) - 研究会資料形式 (サブタイトル) -,” 日本音響学会聴覚研資料, vol.40, no. 2, pp.1-6, Sept. 2010.
- [14] (国内大会, 研究会論文集例 2) H. Onkyo and T. Chokaku, “Word Template (Title) -The Format of Proceedings (Subtitle) -,” Proc. Auditory Res. Meeting, ASJ, vol.40, no. 2, pp.1-6, Sept. 2010.
- [15] (国内大会, 研究会論文集例 3) 川上三郎, 川口四郎, “紫外域半導体レーザ,” 1995 信学全大, 分冊 2, no.SB2-1, pp.20-21, Sept.1995.